長岡大学ブックレット

vol. 35
平成25年6月

学生による地域活性化プログラム

地域コミュニティ活性化による豊かで安全・安心な暮らしを考える　シリーズ①

旧神谷信用組合を活用したコミュニティ活性化（平成22年度）

高橋治道ゼミナール

4年生　齋藤健二
中村良胤

3年生　石田美希
板垣友祐
近藤　翔
柾谷貴広
渡邉尚史

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE
since 2004
2009.4－2016.3

長岡大学ブックレット刊行にあたって

平成25年6月
長岡大学長　内藤　敏樹

私は、平成24（2012）年４月に、長岡大学の第３代学長に就任しました。この１年間、本学の教育・研究・社会貢献活動を進めるとともに、新潟・長岡地域の諸活動にも参加してきました。その過程を通して、あらためて、「長岡大学は地域に役立つ教育機関」をめざすべきことを強く実感し、長岡大学の教育等の活動内容を地域社会に発信するブックレットの刊行を再開することとしました。

そもそも、本学の建学の精神は、次の２つに表現されておりますので、本質的に、長岡大学は「地域に役立つ大学」を目指さなければなりません。

☆幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進

☆地域社会に貢献し得る人材の育成

本学は、この間の大学改革の流れのなかで、次の４件のプログラムが文部科学省の大学改革補助事業（補助金）に選ばれ、改革を進めてまいりました。

・平成18～20年度　現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）「産学融合型専門人材開発プログラム－長岡方式－」
・平成19～21年度　現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）「学生による地域活性化提案プログラム」
・平成19～21年度　社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム「長岡地域産業活性化のためのＭＯＴ教育『イノベーション人材養成プログラム』」
・平成21～23年度　大学教育・学生支援推進事業【テーマＢ】学生支援推進プログラム「学生の３つの就職力一体形成支援プログラム」

こうしたプログラムによる教育改革を経て、現在、一言でいうと、＜産学融合教育プログラム＞を進化させ、＜専門能力（資格対応型専門教育）＋社会人基礎力（産学連携型キャリア開発教育）＞を身につけた＜地域が求める人材＞を養成しています。その結果、就職内定率も大変すばらしい結果（平成25年３月卒業生は99.0％）を生んでいます。

私は、常々、大学全入時代を迎え、地方の大学は「魅力」を出し地域に評価されていかないと生き残れないと思ってきました。地方の、小さな大学ができることのひとつが「地域活性化」だと思います。**都会のマンモス大学にはできない地域活性化策を具現化することで、地域の産業・企業や地域社会の方々に＜長岡大学の卒業生は使えるね＞とか＜役に立つね＞という評価**を頂けるよう、**大学挙げて地域との協働を進めて行きたい**と考えています。

この長岡大学ブックレットは、本学の教育の様々な特徴ある取組をご紹介する媒体ですが、私としては、以上の趣旨を踏まえて、この「地域活性化」の取組を中心に、刊行していきたいと考えます。ブックレットをご一読いただけば、長岡大学の地域活性化の取組がわかり、地域との協働の姿が浮かび上がるよう、継続的に刊行して行きたいと考えます。そして、このブックレットの内容に関し、企業や地域の方々からどしどしご意見をいただき、情報交流を活発にし、取組の改善を図って行きたいと考えます。ご感想等どしどしご意見ください。ご連絡先は次の通りです。

☆ご連絡先　TEL　0258-39-1600（代）　担当：総務
E-mail　info@nagaokauniv.ac.jp

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE
since 2004
2009.4－2016.3

長岡大学は、文部科学大臣が認証する財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、平成22年３月24日付で、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と「認定」されました。
認定期間は、2009年４月１日～2016年３月31日です。

はじめに

―ゼミ学生による神谷地域活性化活動について―

長岡大学教授／ゼミ担当教員　高橋治道

高橋ゼミでは，長岡大学が平成 19（2007）年に採択された文部科学省の現代 GP プログラム＝「学生による地域活性化提案プログラム」に参加し、現代 GP プログラム助成終了後も（現在は「地域活性化プログラム」の名称)、継続して取組んでおります。

本ゼミの取組みは、「長岡市の総合計画の事業計画について学生の視点で課題を明らかにする」ことを目的に、「地域の安全・安心・豊かな暮らし」をキーワードに参加しています。

平成 19～20 年は、「安全・安心・文化的なまちづくり－ＩＣＴを活用した長岡市を考える－」をテーマに、ＩＣＴを利用した地域の安全・安心を考える取組みを行う中で、若者約 400 人にアンケート調査を行った。その結果，若者は地域で行われていることをほとんど知らず、地域の安全･安心を守るには､地域の人と人との密接なつながりが大切であることが明らかになりました。

この結果を踏まえ､以後､「地域コミュニティ活性化による豊かで安全･安心な暮らしを考える」をテーマに取組むこととし､平成 21 年度は､地域活性化の要因の解明に取組みました｡その結果、①地域のまとまりがよく、コミュニティがしっかりと機能している、②様々な行事が活発に行われ多くの住人が参加している、③各年代に対応した各種団体が存在し、構成員同士の親睦を図ると共に団体そのものが地域活性化に積極的に関わっている、④古くからの住民と新興住宅地住民の協調がうまく行われている､という４条件を基準に､長岡市神谷地区を調査対象に選びました。

神谷地区は、信濃川と渋海川に挟まれた長岡市南部（旧越路町の東部）の平野部に位置し、周りを田んぼに取り囲まれた戸数 160 戸、人口約 630 人の小さな村です。ここ 20 数年の間に、その約 25%は、２度にわたって行われた宅地造成によって他の地区から移り住んできた人たちで構成されています。そのため、都市化が進む大・中都市近郊の農村地域同様に、古くからの住民と新興住宅地の住民との間の協調を課題として抱えつつも、コミュニティを構成する住民や各種団体の活動が活発に行われ、活力にあふれた地域です。

ゼミ生は、積極的に神谷地区に入り、神谷地区の組織・団体に対するヒアリングを行うとともに、神谷の子供たちが中心となって育てたもち米の収穫を祝う「収穫祭」や毎年 1 月に行われる「さいの神」の行事に参加し、神谷地区の人との交流も深めました。以後，現在までゼミ活動は続き、地域の各種行事に高橋ゼミ生がいることが当然というくらいに交流も深まっています。この過程で、アドバイザーの白井湛さん（神谷区長）と桑原眞二さん（NPO 法人ながおか生活情報交流ねっと理事長）に大変お世話になりました。厚く感謝申し上げます。

この活動を通して、ゼミ生達は大きく成長し，積極的な生き方をするように変わってきています（次頁を参照)。
このブックレットを通して、学生たちのそのような変化を感じ取っていただけたらと思います。

なお、本ブックレットはシリーズ１とし、平成 22 年度の活動成果を報告します。以後各年度の成果をシリーズ２以降で、ご報告する予定です。ご期待ください。

平成 25 年６月

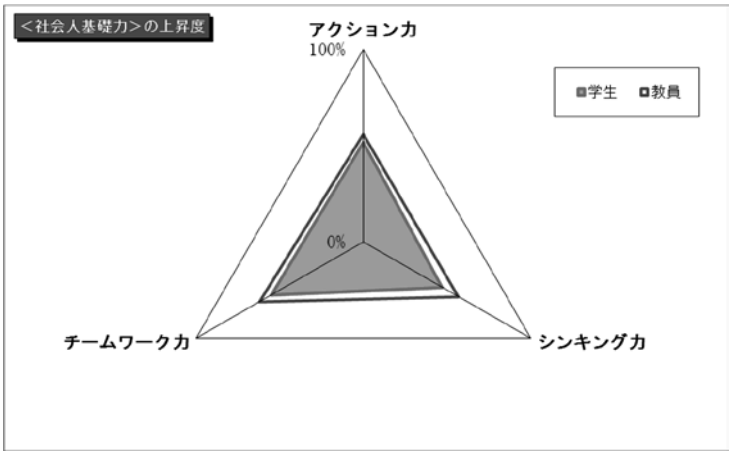
平成 22 年度　学生による地域活性化プログラム

社会人基礎力の上昇度

平成22年度地域活性化プログラムに参加した９ゼミ学生の「社会人基礎力」の伸び具合について、学生に「社会人基礎力診断シート（学生用）アンケート」を実施し、ゼミ担当教員には同様の「社会人基礎力診断シート（教員用）アンケート」を実施しました。　アンケートは取組に参加した学生一人一人を対象に、社会人基礎力の変化を評価する形とし、学生は自己評価（有効回収89）であり、教員は各ゼミ生についての評価です。

ゼミごとの上昇度については、ゼミ生の人数差などがあり若干の違いがあります。

＊上昇度とは、取組前と比較して取組後に社会人基礎力が「上昇した」と回答した人数の割合

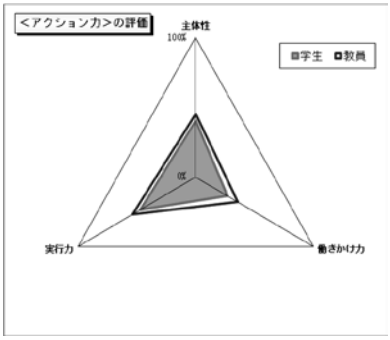


★「社会人基礎力」
＝「アクション力」「シンキング力」
「チームワーク力」が上昇

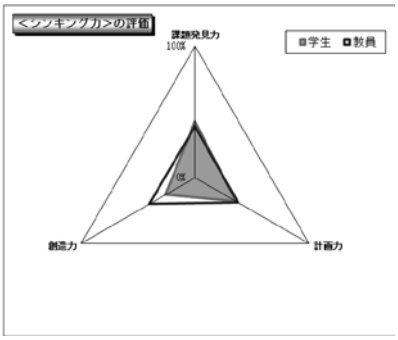
☆３つの社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後の比較）は、学生の自己評価ではシンキング力が低いが、教員評価ではどの基礎力も６割前後の学生が上昇したと回答している。

☆図の網掛け　は学生の評価、実線太字　は教員評価である。

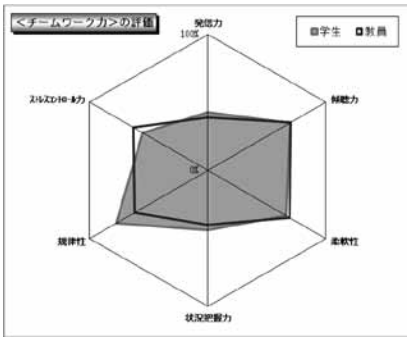
	学生	教員
アクション力	51.7%	55.8%
シンキング力	47.2%	56.8%
チームワーク力	55.1%	62.1%



	学生	教員
主体性	40.4%	45.3%
働きかけ力	27.0%	35.8%
実行力	47.2%	53.7%



	学生	教員
課題発見力	42.7%	38.9%
計画力	36.0%	37.9%
創造力	25.8%	40.0%



	学生	教員
発信力	42.7%	38.9%
傾聴力	69.7%	70.5%
柔軟性	66.3%	69.5%
状況把握力	43.8%	40.0%
規律性	77.5%	62.1%
ストレスコントロール力	55.1%	63.2%

<アクション力>

アクション力に関する指標は、「主体性」、「働きかけ力」、「実行力」である。

アクション力では、働きかけ力の評価が、学生、教員ともに低い。
やはり言われたことはするが、主体性は弱く、働きかける力はそれ以上に弱いという結果になっている。今後どうやって積極性をつけさせていくかが課題として残っている。

<シンキング力>

シンキング力に関する指標は、「課題発見力」、「計画力」、「創造力」である。

学生の自己評価では、課題を見つけられたが、自分で計画して課題に立ち向かい、課題解決ができた学生は少ないということになる。とりわけ、学生の自己評価では、創造力が著しく低い。しかし、これに対して教員評価はかならずしも低くはない。学生が自己評価で厳しい評価をしていることは、その学生にとって成長への原動力になるものと思われる。

<チームワーク力>

チームワーク力に関する指標は、「発信力」、「傾聴力」、「柔軟性」、「情況把握力」、「規律性」、「ストレスコントロール力」である。

チームワーク力では、学生の自己評価と教員の評価に多少のずれはあるが、概ね相関している。学生の自己評価も同様だが、教員の評価が発信力と情況把握力が低い点は、今後指導を強めていく必要があるだろう。

学生による地域活性化プログラム

地域コミュニティ活性化による豊かで安全・安心な暮らしを考える　シリーズ①

旧神谷信用組合を活用したコミュニティ活性化（平成22年度）

高橋治道ゼミナール

４年生　齋藤健二　中村良胤

３年生　石田美希　板垣友祐　近藤　翔　柾谷貴広　渡邉尚史

目　　　次

1　はじめに …… 1

2　神谷信用組合をめぐる経過 …… 2

3　旧神谷信用組合の建物の活用に向けた神谷地区の取り組み …… 2

4　旧神谷信用組合の建物を活用した地域活性化について …… 3

5　地域コミュニティに対する住民意識 …… 9

6　まとめ …… 20

参考文献 …… 22

謝辞 …… 22

1　はじめに

1.1　取り組みの趣旨

近年、少子高齢化問題や若者の都会への流出、災害等様々な理由から多くの農村地域が衰退している。そんな中、中越地震等をきっかけとして、自分達の歴史文化を守り、伝統を残していくために、自分達で地域活性化を行う活動が各地で取り組まれています。長岡市神谷地区の住民達もただ市や国がなんとかしてくれるのを待つのではなく、自分達の村は自分達で守って行くのだという思いを一つにして地域の活性化に取り組んできている。

前年度まで高橋ゼミナールでは、「安全・安心・文化的なまちづくり－ICT を活用した長岡を考える－」というテーマで神谷地域に着目し、地域コミュニティ活性化要因を明らかにする取り組みを行って来た。これまでのゼミの取り組みを踏まえて、今年度は「－地域コミュニティ活性化による豊かで安全・安心な暮らしを考える－」をテーマとし、地域に残された文化、歴史、建築物などの資産を守りながら地域の活性化をはかる“方策”と“住民意識”を明らかにすることとした。具体的には，神谷地区が取得した旧神谷信用組合の建物と休耕畑を連動させた活用による地域活性化と“神谷地区の住民意識の調査を考える。

1.2　取り組みの目的と明らかにする内容

現在神谷地区では、自分たちの手で地域活性化を行い、村と伝統を守り、住みよい地域づくりを目的として活動している。しかし、地域を活性化させるにはどのようなことをやっていったらよいのかに対する予め決まった答えはなく、より多くの案の中から具体策を定め、実行に移して行く必要がある。そのため、住民達の案だけでなく、幅広い分野・世代から案を求め、その中から自分たちで実行できる活性化案を採用し、実行してゆくことになる。

高橋ゼミナールでは、学生あるいは若者の視点で神谷地区の地域活性化をサポートできないかと考え、平成２１年に神谷の住民たちが買い取った旧神谷信用組合の建物等を利用した地域活性化を考えこととした。また、地域活性化を行うには、そこに住む住民たちが地域に対してどのような意識を持っているかが重要なポイントとなることから、神谷地区の住民意識の調査を実施することとした。

図表１　神谷地区の位置

２　神谷信用組合をめぐる経過

2.1　神谷信用組合の歴史

明治２０年代より「互助組合」「友愛組合」的な組織の設立を検討するも実現せず

明治３７年　神谷信用組合が設立認可される（事業組合法による、資機材共同購入等も行う）

昭和　３年　鉄筋コンクリート造りの建物を新築

昭和１９年　神谷信用組合を解散し来迎寺村農業会に一切の資産・権利を移管する

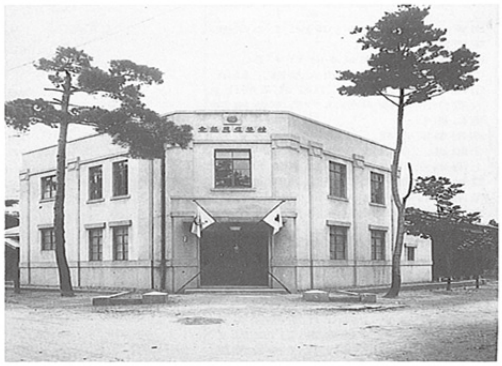
※同農業会は、昭和２３年来迎寺村農業協同組合、平成２年こしじ農業協同組合、平成 13 年越後さんとう農業協同組合に引き継がれる。

平成２１年１１月、越後さんとう農業協同組合から神谷地区が旧神谷信用組合の建物を買い取る

図表２－１　創立当時の神谷信用組合の事務所

創立当時の事務所

図表２－２　昭和３年新築



神谷信用組合事務所全景
（現神谷出張所　昭和３年竣工）

図表２－３　平成２１年当時の写真

図表２－４　現在の旧神谷信用組合

2.2　買い取りの理由

神谷地区が旧神谷信用組合の建物を購入した理由は次の５点である。

① 神谷の歴史を物語る遺産である。

② 大地主高橋九郎氏を中心としてすすめられた「地区の産業活性化」の象徴的な建物である。

③ 産業史・建築的視点からの価値が高い。

④ 保存と活用を通して神谷の歴史と文化を後世に伝える。

⑤ 歴史的な建物の保存活動を通して住民間の交流を図る。

３　旧神谷信用組合の建物の活用に向けた神谷地区の取り組み

3.1　これまでの取り組み

- 歴史・文化の会　設立世話人会（平成２１年１０月）
- 文化講演会　講師：長岡大学松本和明先生（平成２１年１０月）
- 歴史・文化の会　第１回設立総会（平成２１年１２月）

- 写真の収集と時代背景のフリートーク（平成２２年３、４月）
- 写真収集の開始（平成２２年６月）
- 市民活動団体助成事業に採用（平成２２年８月）
- 収集写真の展示（平成２２年８月）
- 第１回写真展示会（平成２２年１１月）

図表３－１

図表３－２

- 文化講演会　講師：長岡造形大学　平山育男先生（平成２３年２月）
- 写真展示会　長岡市民センター　（平成２３年２月２日～２８日）

４　旧神谷信用組合の建物を活用した地域活性化について

4.1　現地調査・ヒアリング

今取り組みを始めるに当たり、旧神谷信用組合の現地調査とヒアリングを２回にわたって実施した。

第１回
日　時　７月２０日
対象者　神谷区長　白井湛氏
　　歴史・文化の会事務局長　丸山信昭氏
内　容　旧神谷信用組合の建物の説明（買い取り理由や現在建物をどう利用しているかなど）とこれまでの神谷の取り組みについて話を聞いた。

図表４－１

図表４－２

第２回
日　時　１２月１４日
対象者　神谷区長　白井湛氏
内　容　旧神谷信用組合の近くにある畑の現状について話を聞くとともに、現場に行って畑の現状を確認。
耕作者の高齢化により、約２０反の畑のうちの半分近くが耕作放棄に近い状態になっていることが分かった。

図表４－３

図表４－４

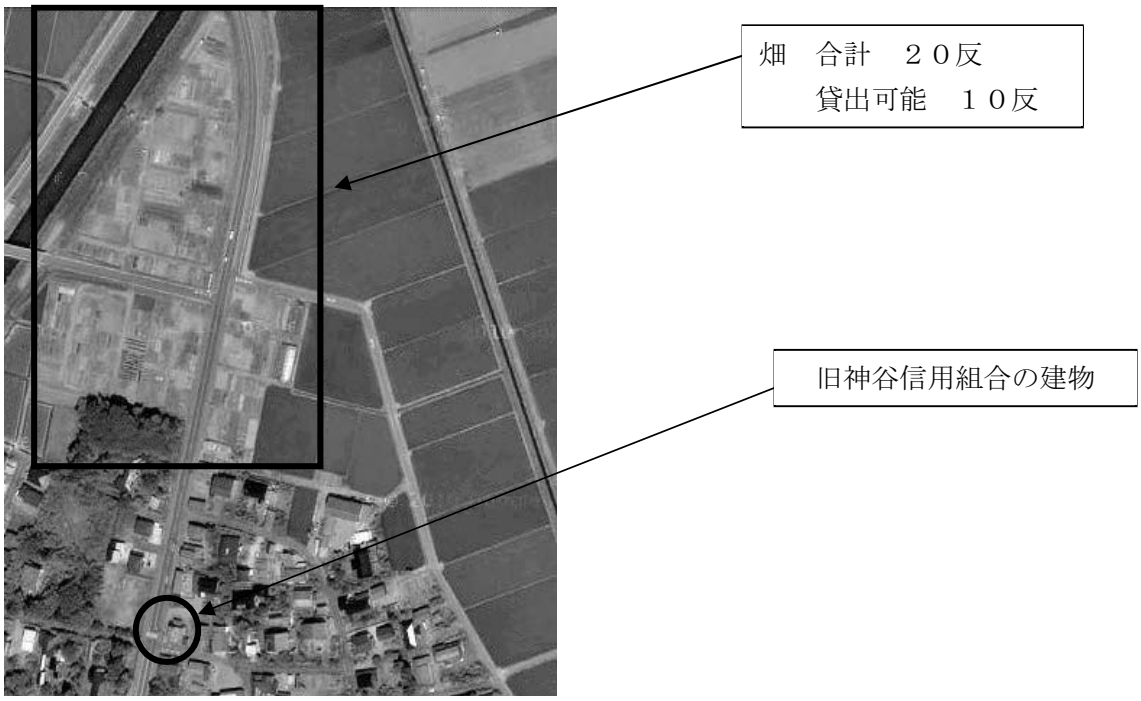
4.2　活用方法について

２回の現地調査・ヒアリングの結果、旧神谷信用組合の建物と神谷地区にある畑とを連動させた活性化策を考えることにした。

理由として次の５点である。

① 耕作者の高齢化により，畑作を辞めたいと思っている人が多い
② エコブーム等で都市の人には畑作希望がある
③ お年寄りによる農業指導→地域内外の人との交流、お年寄りの意欲向上
④ 建物が交通の便が良いところに位置している
⑤ 旧神谷信用組合の建物と畑の距離は１００ｍと近く、建物を活用するのに適している。

図表４－５　神谷地区の地図

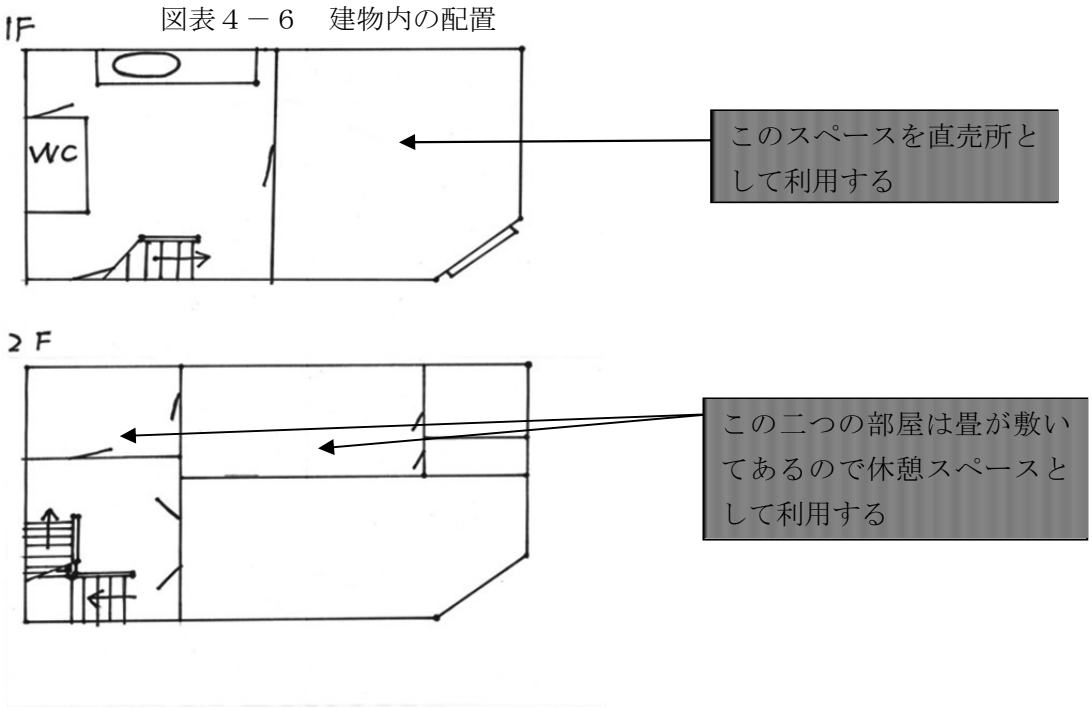


4.3　建物内の配置

旧神谷信用組合の建物は、交流の拠点として、一階に畑で収穫した野菜や神谷地区で作られた加工品、工芸品などを売る直売所、二階に畑作りの人のための休憩所として利用することにした。

また、畑の所有者と畑作希望者との橋渡しを行う仲立ち組織を作り、その事務所もこの建物内に置くことを考えている。

図表４－６　建物内の配置



4.4　休憩所

畑貸し出しの利用者が農作業後に休憩する場として利用してもらう。また神谷地区の住民の方にも自由に来ていただき、地域内外の交流の場として利用してもらう。

施設内の畳の部屋２ヶ所は休憩スペースとして使い、隣接する右側２ヶ所の部屋は物置や仮眠スペースとして利用を考えている。

施設内で使用する机などの家具は、住民の方達からの寄付を利用することとし、あたたかみのある場所に仕上げていくことを考えている。また、壁には、収集した神谷地区の古い写真や資料を展示し、地域外の人にも神谷地区の事を知ってもらうことができ、交流する際の話のきっかけ作りができるようにする。

4.5　直売所

直売所では、①畑で採れた野菜、②加工品、③工芸品などを売ることにする。

① 売りたいと希望する人の野菜を売る。営利目的での畑作は禁止しているので、原則として多く作り過ぎ、作った人が消費できない分とする。

② 神谷地区オリジナルの弁当、漬け物、佃煮、菓子など。

③ 神谷地区で作られた工芸品などを売る。藁を使った米俵のストラップや蓑などを商品としていく。

また、元々金融機関の建物であったことから、厳重な金庫があり、資料やお金等を保管するのに適しているので、畑貸し出しの受付所をここに置き、貸出事務を行うこととする。

4.6　畑の貸し出し

現在の神谷地区は、耕作困難な畑が増えている（図表４－７、４－８、４－９、４－10)。そこで、図表４－１１の条件で、畑の貸し出しを行うこととする。

図表４－７　現在の畑

図表４－８　現在の畑

図表４－９　現在の畑

図表４－１０　現在の畑

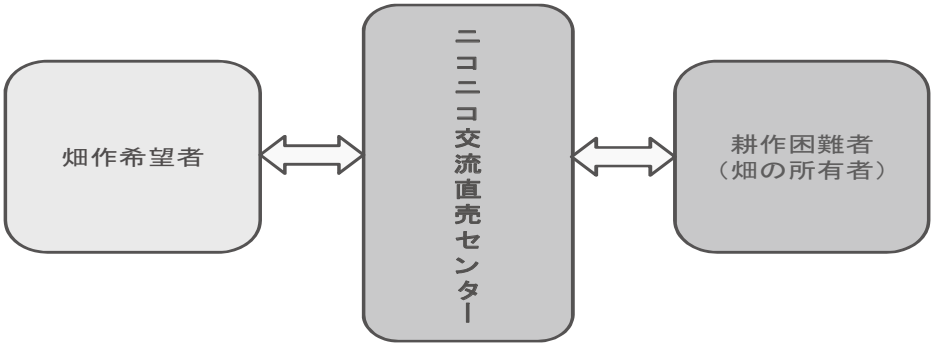
図表４－１１　畑の概要

土地面積	１００００㎡
料金（年間）	１００００円前後（１区画）
区画	５ｍ×５ｍ＝２５㎡
貸出期間	１年（同じ区画を契約更新可）
設備	水道　トイレ　レンタル農具　ゴミ置き場　雑草置き場　道具入れ 東屋（休憩所）　管理事務所　更衣室　駐車場
禁止事項	借りた区画を転貸（又貸し） 借りた区画内に建物を設置 農薬の使用禁止 営利目的の作物を栽培 法律、条約、規則に反する行為
備考	農業指導を行う

◆　貸し出し方法

畑の貸し出しは、畑の所有者と畑作希望者との仲立ち組織・ニコニコ交流直売センター（名称仮）を作り、このセンターが仲立ちして貸し出すこととする。

図表４－１２　畑貸し出しのシステム



◆　貸し出しの対象者

貸し出し対象者は、地区外の人で県内の人とする。畑の貸し出しは地域の活性化が目的であるため、営利目的ではなく趣味で畑を作る人に限ることとする。こうすることにより、地区外の人達を多く神谷に呼び込むことができるのではないかと考える。

◆　料金

料金は、一年間で１区画１００００円前後を予定している。この料金にした理由は、他の畑貸し出しを行っている場所の料金（おおむね１００００円前後）を参考にした。

また、畑の所有者は、貸出面積に応じた手数料をセンターに払うこととする。センターは、この手数料収入を建物の維持管理費などにあてる。

◆　区画

区画の面積は場所により前後するが、５ｍ×５ｍ＝２５㎡を基本とする。区画をこの面積にした理由は、趣味で畑を作りたいという人達を貸し出し対象とすることを考えているため、４ｍ×０．６ｍの畝が大体３～４本取れればよいのではないかと考えこの面積にした。

◆　貸出期間

貸出期間は、１年間とする。ただし、畑の土つくりに相当の年月を必要とする場合も考えられるので、同じ区画を契約更新することができるものとする。

◆　設備

畑作業は土が相手であることから、土にまみれたり、汗をかいたりして体が汚れる。そのため、センターにはロッカー、更衣室、シャワールームを設置する。また、とれた作物も調理してみんなで楽しめるように、センター内に調理場を設置する。

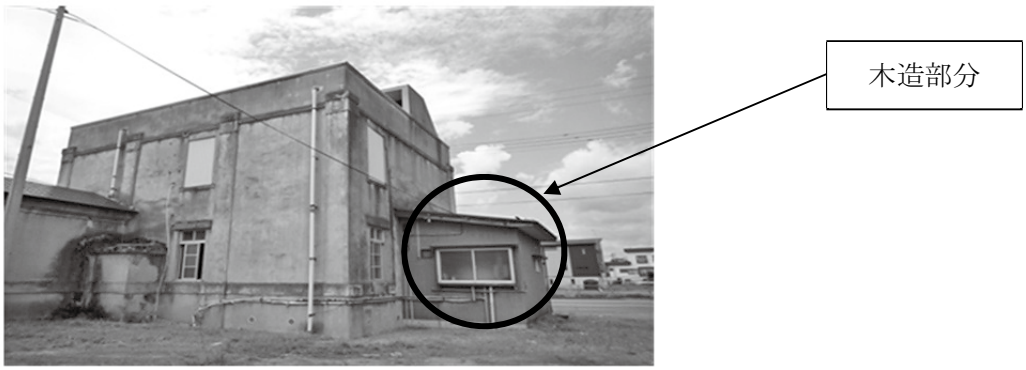
気軽に畑作を楽しんでもらうには、農機具をセンターがあらかじめ用意しておくことが求められるため、レンタル農具（鍬や鋤など。農機の貸し出しは行わない）をセンターに用意する。さらに、個人の道具を保管する場所を畑の一画に設置する。

畑には、作物に水をやるための水道（水やり用）、トイレ、ゴミ置き場、雑草置き場を用意する。また、センターに戻らなくてもちょっと休める東屋（休憩所）を設置する。

さらに、車で来る人が大半であろうから、旧神谷信用組合の建物の裏手に駐車場を設置する。足りない場合は建物の前にある公園の一部も駐車場として利用する。

なお、更衣室とシャワールーム、および調理場は、旧神谷信用組合の建物に増設された木造部分を壊し、新たに増設して設置することとする。

図表４－１３



◆　禁止事項

地域活性化のための畑の貸し出しであるために借りた区画の転貸（又貸し）、借りた区画内への建物の設置、農薬の使用禁止、営利目的の作物の栽培、法律、条約、規則に反する行為は禁止とする。

◆　農業指導

畑を貸し出すにあたり、希望者へは、農業指導を行ったほうが良いと考える。指導者は、経験豊富なお年寄りにやってもらうのが良いのではないかと考える。農業指導を行ってもらうことにより、地域内外の人との交流、お年寄りの意欲向上に繋がると考える。

◆　貸し出しによるメリット

畑の貸し出しによるメリットは３点ある。

① 畑の貸し出しによる地域内外の人達の交流ができる。

② 農業指導によるお年寄りの意欲向上につながる。

③ 畑を貸し出すことによって、畑の所有者は畑を耕作しなくてすみ、畑を作りたいと思っている人は畑を作ることができる。

①、②の理由としては、農業指導をしてもらうことにより地域内外の人達と交流することができ、その交流によりお年寄りの意欲が向上すると考えられるためである。

③の理由としては、現在の神谷地区では高齢化が進み、畑をやめたいと思っている人がいる。しかし畑を管理しないでいると雑草が生えてしまい周りに迷惑がかかるのでやめることができない。畑を貸し出すことにより、やめたいと思っている人が畑を管理しなくてすみ、畑を作りたいが場所がないという人達が畑を作ることができる。

５．地域コミュニティに対する住民意識

5.1　調査項目

① 調査対象：神谷地区

② 配布数：163 票

③ 調査方法：郵送配布、郵送回収

④ 調査期間：平成２２年１２月～平成２３年１月２４日

⑤ 調査項目

Ⅰ　神谷地区の防犯について

Ⅱ　住民同士のつながりと交流について

Ⅲ　神谷地区の防災について

5.2　アンケート調査の結果

①回収状況とアンケート調査の結果

〇回収状況

配布数：163 票

回収数：56 票

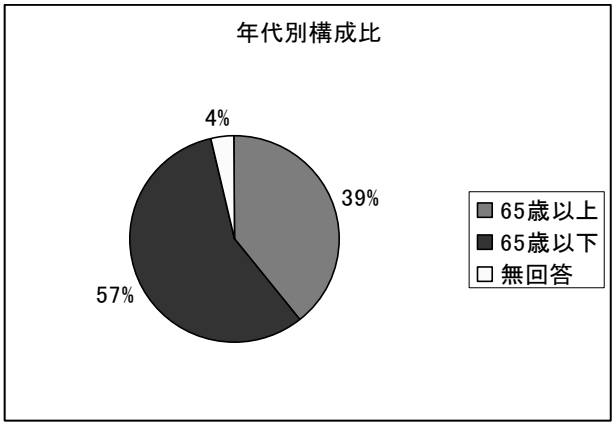
回収率：34.0%

回答者の属性

Ⅰ　年代

年代	件数	比率
65 歳以上	22	39.0%
65 歳以下	32	57.0%
無回答	2	4.0%
総計	56	100.0%

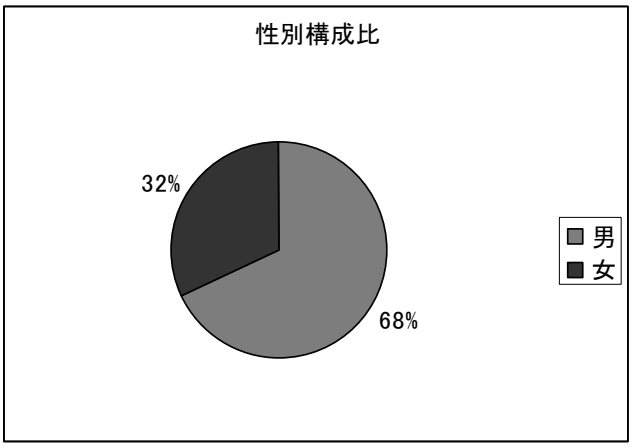
図表５－１



Ⅱ　性別

性別	件数	比率
男	36	32%
女	18	68%
総計	56	100%

図表５－２

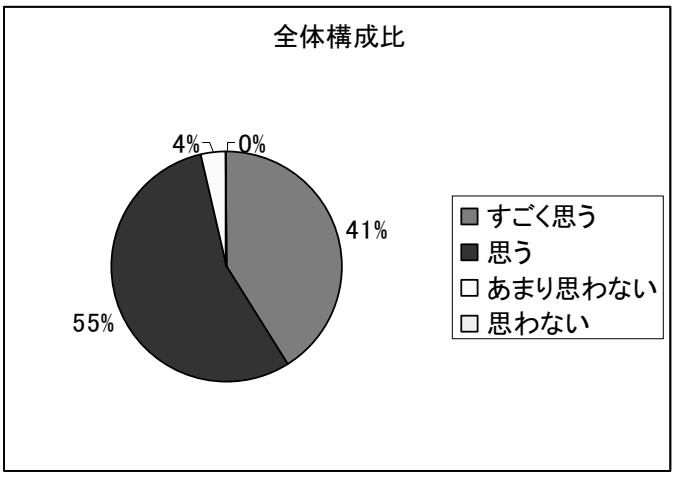


Ⅰ.神谷地区の防犯について

設問 1. 防犯対策として隣近所との交流、つながりは重要だと思いますか。

「すごく思う」と「思う」で 9 割以上を占めており、ほとんどの住民が隣近所との交流、つながりは防犯対策に必要だと考えていることが分かった。理由として、日頃からの情報交換が重要、昼間は老人だけで留守番になる、近所の人の目があると安心できるなどの回答が多かった。

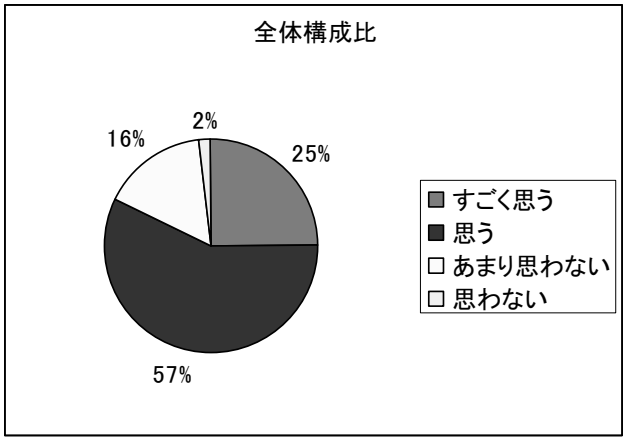
図表５－３



設問２. 神谷地区で行われている各種の行事は、住民同士のつながり強化に役立っていると思いますか？

約 8 割の住民が「行事はつながり強化に役立っている」と回答している、主な理由は、「普段会わない人と話ができる、交流の場になる」などが多かった。「あまり思わない」「思わない」を選んだ理由としては、「個々のつながりは出来るが全体としては疑問、若い人があまり参加していないため役立っているとは言い難い」などの回答であった。

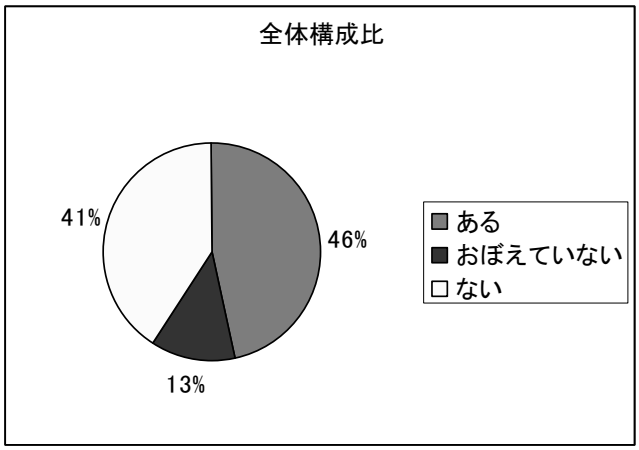
図表５－４



設問３．隣近所や親しい人の間で、不審者、空き巣、訪問販売などの情報を知らせあったりしたことがありますか？

「ある」と「ない」の回答がほぼ半々になった。「昼間仕事で家にいないが、家族が近所の人から情報を教えてもらう」といった回答があった。

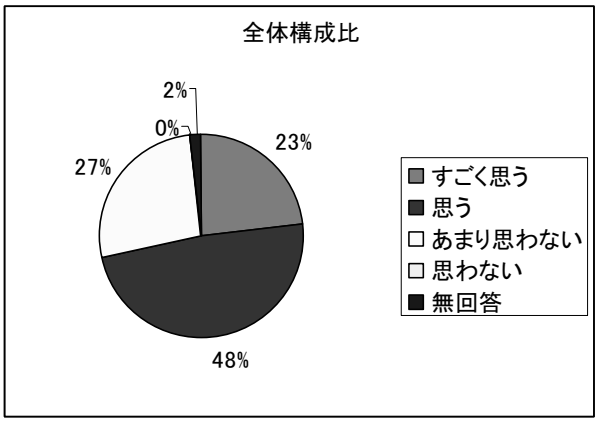
図表５－５



設問４．犯罪を未然に防ぐために、地域住民によるパトロール活動は有効だと思いますか？

「すごく思う」と「思う」を合わせて、約７割の人が「地域住民によるパトロール活動が有効」だと考えていることがわかった。

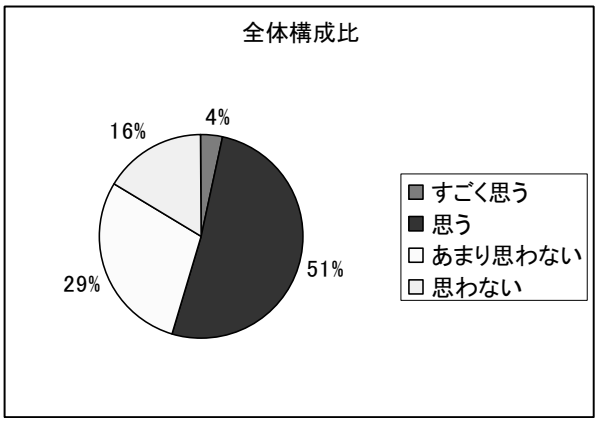
図表５－６



設問５．有志を募ってパトロール活動を行うとしたら参加してもよいと思いますか？

「すごく思う」と「思う」を合わせて、約８割に人がパトロール活動に「参加してもよい」と思っていることがわかった。

図表５－７



設問６．あなたがぜひパトロールしてほしいという場所があれば御記入下さい。

「ぜひパトロールして欲しい場所」としては、子どもの通学路関係の回答が特に多かった。他に高速道路ボックスの付近、一人暮らしの老人の家の付近、裏通り、神社、公園などの回答があった。

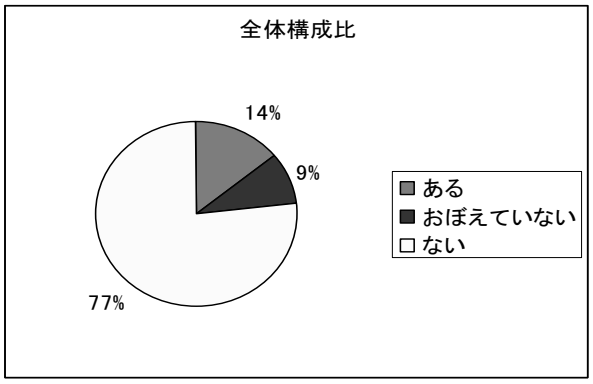
設問７．あなたが防犯に関して、神谷に何か希望することがあれば御記入下さい。

「街灯の数を増やしてほしい、照度をアップしてほしい」といった回答が一番多かった。
他にも、「一人暮らし老人への配慮、安否確認、不審者の情報を回覧板などでまわしてほしい、みんなが気軽に話ができる場が欲しい」などの回答もあった。

設問８．長岡市のホームページにある犯罪情報などを参照したことはありますか？

長岡市のホームページの犯罪情報は、約８割弱の人が「参照したこと」は「ない」。「ある」人は非常に少ない（14%）。

図表５－８



設問９．防犯に関して長岡市にしてほしいことはありますか？あれば御記入下さい。

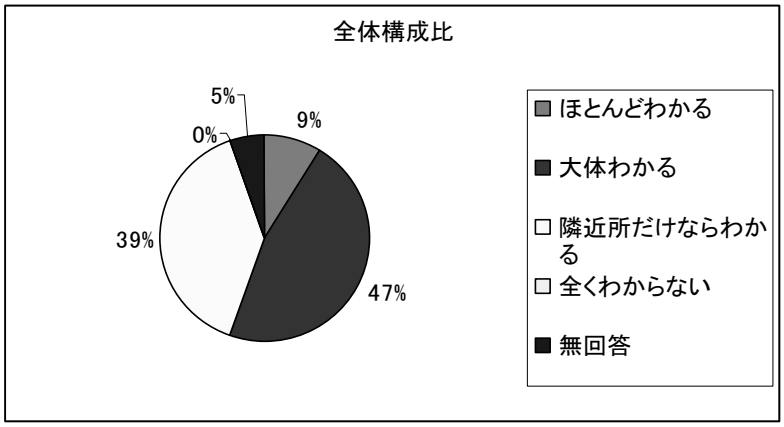
長岡市に対しては、「街灯を増やして欲しい、照度をあげてほしい、点検をしてほしい」等街灯に関する回答が多くみられた。次に多かったのが「以前あった防災無線を復旧して欲しい」という回答だった。他にも「警察と協力したパトロール、悪徳販売業者の情報を流して欲しい、情報をもっと早く流して欲しい」などの回答が挙げられた。

Ⅱ.住民同士のつながりと交流について

設問１０．地域の中でどこに誰が住んでいるかわかりますか？

地域の人がどこに住んでいるかは、「ほとんどわかる」と「大体わかる」を合わせて、約６割弱の人が「わかる」と答え、「隣近所だけならわかる」人は約４割にのぼった。「まったくわからない」人はいなかった。

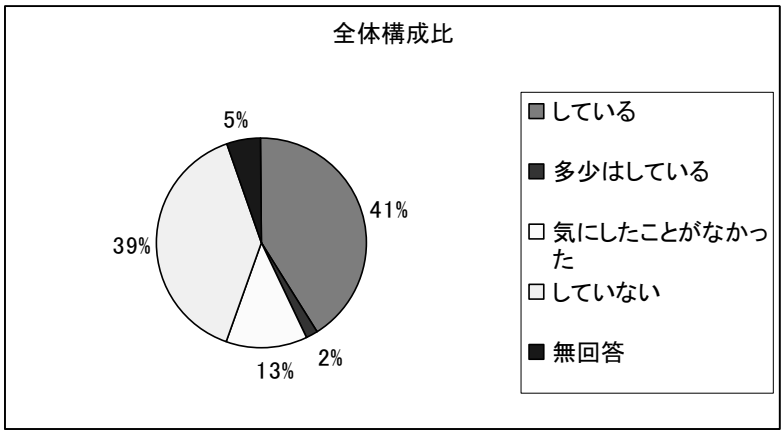
図表５－９



設問１１．老人が一人暮らししている家の場所を把握していますか？

老人が一人暮らししている家の場所を「把握している」人は「多少はしている」人も含めて、約４割強であった。他方、「把握していない」人は約４割にのぼる。老人が一人暮らししている家に対する関心のない人が多く、近所づきあいだけではなく、区及び市が何か配慮をしなければいけないと感じた。

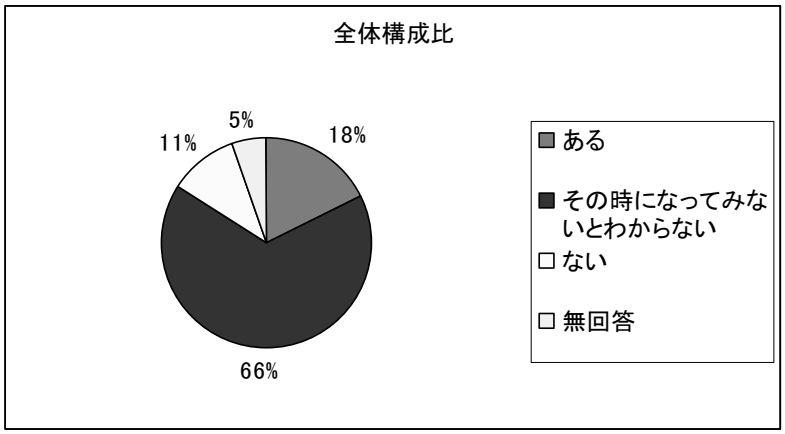
図表５－10



設問１２．隣近所に何か異変があった場合、すぐに気づくことが出来る交流はありますか？

すぐ気づくことができる交流が「ある」人は、約２割弱にとどまり、約７割弱の人は、「その時になってみないとわからない」と答えている。

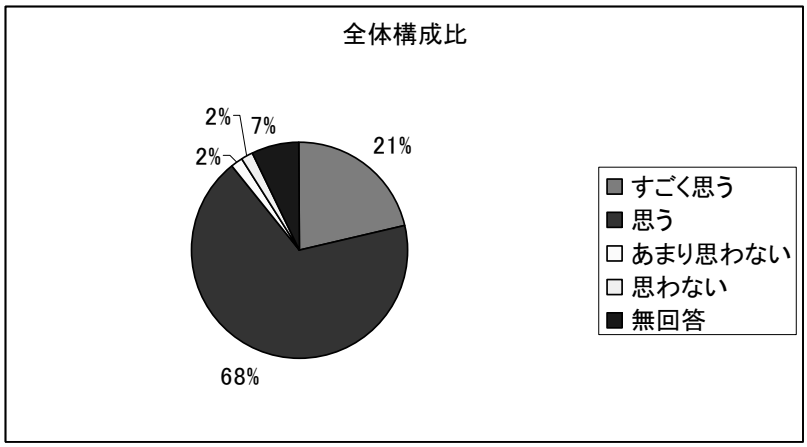
図表５－１１



設問１３．隣近所の人が困っていたら出来る範囲で協力しようと思いますか？

困っていたら協力しようと「すごく思う」人が約２割、「思う」人が約７割にのぼり、ほとんどの人が協力したいと答えており、地域のつながりは十分あると感じることができる。

図表５－１２

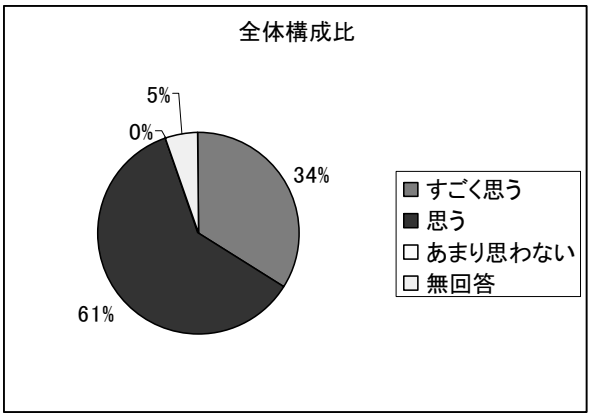


Ⅲ.神谷地区の防災について

設問１４．防災対策として隣近所との交流、つながりは重要だと思いますか？

「地震の時に助け合うことができ、とても重要だと思った。」という回答が一番多かった。他にも「安否確認がしやすくなる、日中は老人が家で一人なため近所のみなさんの助けがなければやっていけない、迅速な行動につながる、知らん顔するわけにはいかない、助け合いの精神」等の回答があった。

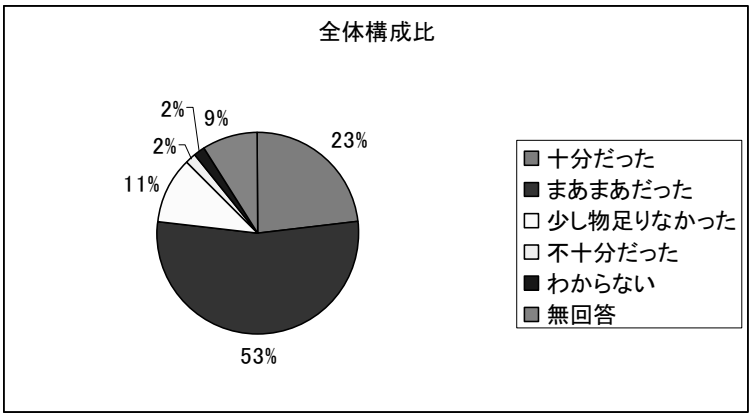
図表５－１３



設問１５．中越地震の際、神谷地区としての支援は十分でしたか？

神谷地区の支援は、「十分だった」が約２割強、「まあまあだった」が５割強で、約７割の人が「まあまあ」と感じていることがわかった。

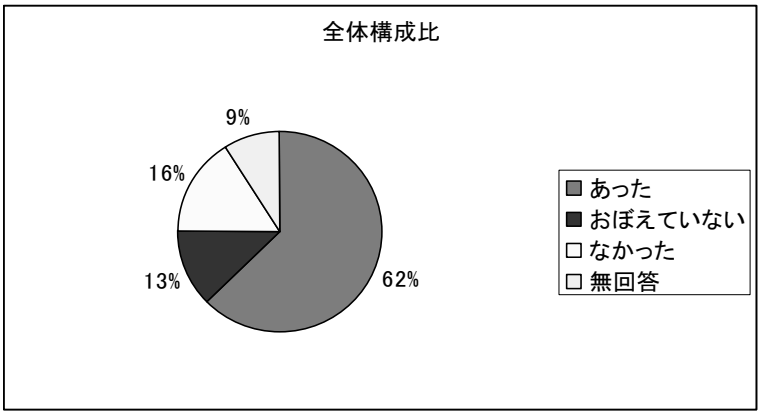
図表５－１４



設問１６．中越地震の際、近所同士の助け合いはありましたか。

近所同士の助け合いが「あった」と答えた人は約６割強と多く、「なかった」と答えた人は２割弱にとどまった。

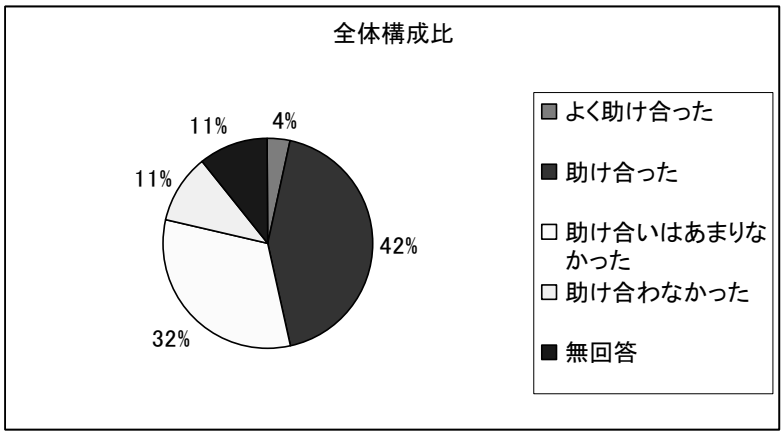
図表５－１５



設問１７．中越地震の際、普段は交流のない人とも助け合いましたか？

普段交流のない人とも「よく助け合った」人は少ないが「助け合った」人は約４割強にのぼるが、他方で、「助け合いはあまりなかった」と答えた人も約３割強にのぼる。日頃から交流を持つことの重要性が感じられる。

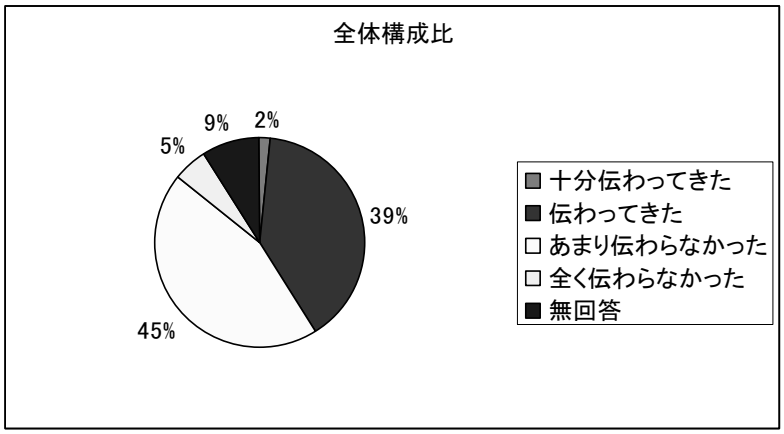
図表５－１６



設問１８．中越地震の際、知りたいと思った情報は上手く伝わってきましたか？

知りたいと思った情報が「十分伝わってきた」は２％とごく少ない。「伝わってきた」と答えた人は約４割弱、他方、「あまり伝わらなかった」が約４割強にのぼり、かなりの人が情報の不足を感じていたことがわかる。

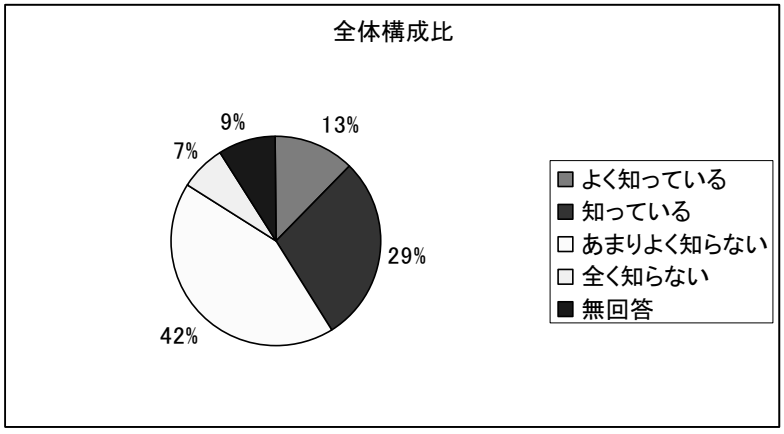
図表５－１７



設問１９．中越地震の際、神谷が行った活動には、どのようなものがあったか知っていますか？

神谷地区で行った活動について、「よく知っている」は約１割強、「知っている」が約３割弱で、一応「知っている」人は約４割強にとどまり、他方で、「あまりよく知らない」が約４割強にのぼり、かなりの人が地区の活動を認知していないことがわかった。このことが、設問１５で、「まあまあ」が一番多いという結果につながったと考えられる。

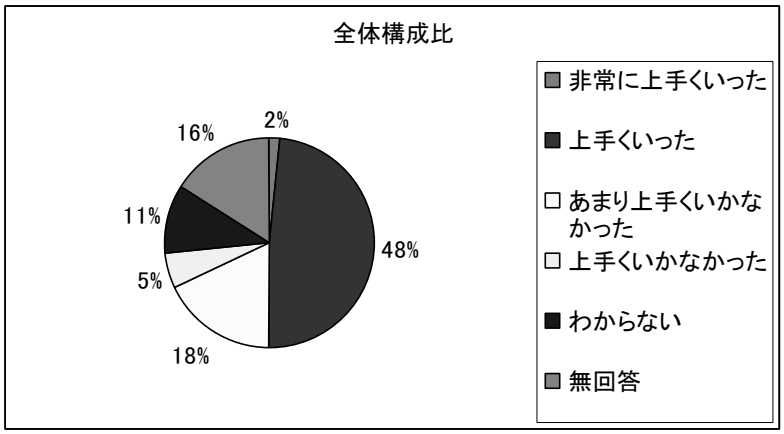
図表５－１８



設問２０．中越地震の際、以前から住んでいた住民と新しく越してきた住民との協力は上手く行われたと感じますか？

中越地震の際の旧住民と新住民の協力について、「非常に上手くいった」は少ない（２％）が「上手くいった」と評価する人は約５割弱にのぼる。他方、上手くいかなかったと答えた人は約２割強（「あまり上手くいかなかった」18％＋「上手くいかなかった」５％）にとどまる。ここから、日頃からの交流が役に立ったと考えられる。

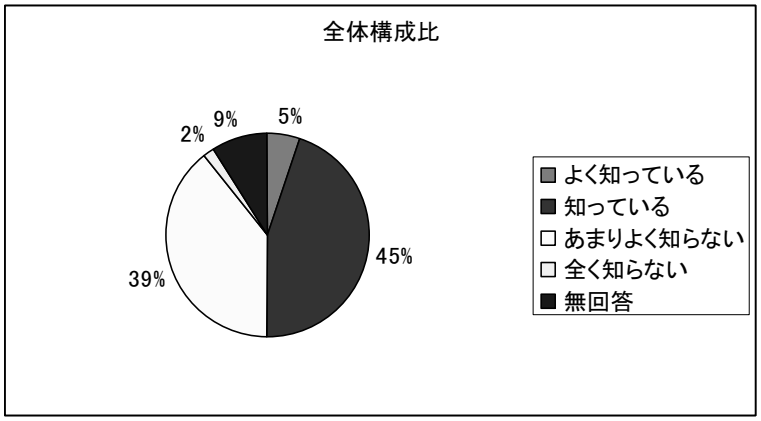
図表５－１９



設問２１．中越地震の際、行政からどのような援助があったか知っていますか？

行政からの援助について、知っている人は約５割（「よく知っている」５％＋「知っている」45％）であり、知らない人が約４割（「あまりよく知らない」39％＋「全く知らない」２％）にのぼる。知らない人が非常に多いと思われる。

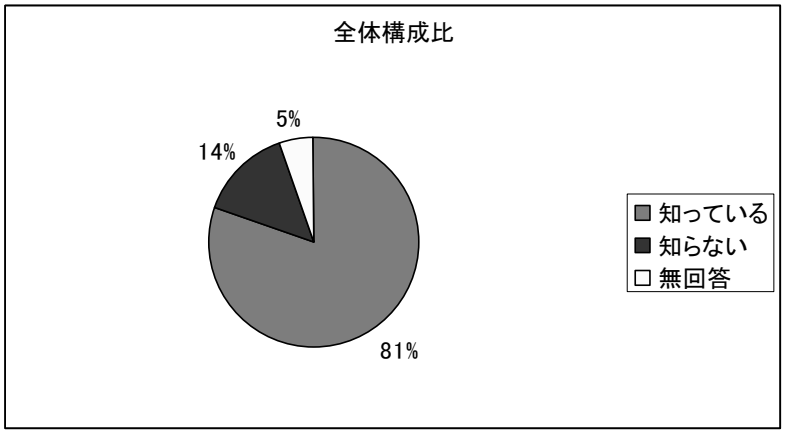
図表５－２０



設問２２．災害の際の避難場所がどこか知っていますか？

約８割の人が避難場所を「知っている」と答えていることから、避難場所はよく認知されているといえるが、これは是非とも「知らない」という回答が無くなるようになってほしい。

図表５－２１



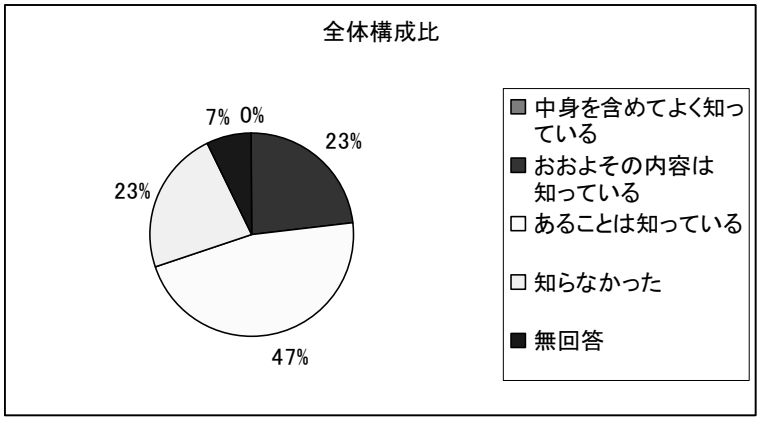
設問２３．災害の際、神谷にして欲しい活動を御記入下さい。

食料・水の提供、迅速な情報提供という回答が多くあった。先の震災では、情報提供の遅れが目立ったのか、それに対する不満が多く挙げられた。特に災害無線の復旧は多くの人が望んでいる。

設問２４．長岡市の防災マップの存在を知っていますか？

防災マップの存在を「知らなかった」と答えた人は約２割強いるが、「知っている」人は約７割（「おおよその内容は知っている」23%＋「あることは知っている」47%）にのぼる。しかし、内容を知っている人は約２割と多いとは言えない状態といえる。多くの人から一度は目を通し内容を知っておいてほしい事柄である。災害はいつ何時襲いかかってくるかわからないので、日ごろから不測の事態に備えておくことが大事である。

図表５－２２



5.3 アンケート調査のまとめ

アンケートの内容に不備があり、回答者を混乱させてしまった部分もあったものの、多くの人が、地域のつながり強化が防犯・防災に効果を発揮すると考えていることが分かった。

防犯に関しては、地域住民の目を活用したネットワークによって犯罪を未然に防ぐことが重要だと感じる。そのために情報の伝達を効果的かつ効率的に行う必要があることがわかった。見守りネットワークともいうべきこのネットワークは、神谷地区に住む人全員の協力があって初めて作れるものである。

ネットワークの他に住民が必要としているものは、街灯であることが分かった。特に冬は暗くなるのが早く、真っ暗な道を歩くことが多くなるために犯罪に巻き込まれる危険性が高まる。街灯のあるなしで安心感は大分違ってくるのだろう。

地域のつながりと交流については、近所同士ならば顔見知りであり、災害時に助け合うことのできる土壌は出来ていると感じる。しかし、一人暮らしの老人などは突然何が起きるのか分からないので、元気で居るかどうかをもう少し頻繁に確かめる仕組みの必要性を感じた。

防災に関しては、やはりほとんどの人がつながりの大切さを認識しており、助け合うことで安心できるといった回答もあった。しかし、情報伝達の面ではかなりの人が不満を感じており、中越地震の際に必要な情報が中々手に入らないもどかしさを感じたようだ。災害時に求めるものは水・食料と正確な情報であることが分かった。

これからの課題としては、独居老人との交流、助け合い、情報の迅速な共有をどう行うか、何かあったとき隣近所だけでなく地区全体で活動するシステムづくりなどが挙げられるだろう。

6　まとめ

本活動を通して、旧神谷信用組合の建物と耕作が困難な畑を連動させた活性策により、地域外の人が神谷に訪れることによる交流や農業指導によるお年寄りの意欲向上が図られ、活気に満ちた神谷地区になるのではないかと考える。

本活動の今後の課題としては、①畑の貸し出しに伴う設備の設置、②直売所の具体化案、③建物の維持管理費、④畑の維持管理、⑤規約について、⑥修復・増築のコストがある。

①の畑の貸し出しに伴う設備の設置については、畑の貸し出しを行う上で必要な農具・肥料の置き場や畑の散水設備などの設置場所をどこにするかを、今後も神谷地区を訪問し具体的に決めていく必要がある。

②の直売所の具体案については、収穫した野菜や加工品、工芸品などを取り扱う商品として考えているが、さらに具体的に検討していく必要がある。加工品は、弁当や菓子などを取り扱うと決めたが、今後は弁当の中身やどのような菓子を扱うのか決めて行かなければならない。工芸品も同様にどのようなものを扱うか決めて行かなければならない。

③の建物の維持管理費では、旧神谷信用組合の建物の維持管理のための費用の確保を考えなければならない。現在は、畑の賃貸料や直販所の収益などで補っていくことになると考えている。

④の畑の維持管理に関しては、畑の日頃の維持管理をどうするかが課題である。今のところは、畑の所有者や現役農家の方に協力してもらうことを考えている。また、畑作を一度も行ったことのない人への技術指導の体制も考えておくことが必要である。現在は、畑作りの経験者に農業指導を行ってもらい、畑作りのノウハウを教えていきたいと考えている。農業指導をしてくれる方がいるのかどうかなどを調査活動で明らかにして行かなければならない。

⑤の規約に関しては、このたびの活動の中で試案を提案したが、さらに詰めていく必要がある。今後は実際に畑貸し出しを行っている場所を調査し、その結果を踏まえてさらに検討を加えてゆくことが必要である。

⑥の修復・増設のコストについては、畑貸し出し料と直売所の収益をこれにあてることを考えているが、まだ修復や増築を行う際にかかるコストを具体的に計算していない。今後はコストを計算して、畑貸し出しと直売所の収益だけで足りるのか、足りなければどこから不足分を出すのかを検討しなければならない。

神谷地区へのアンケート調査を通して、地域コミュニティ活性化による豊かで安全・安心な暮らしを実現するには、地域コミュニティ活動を絶えさせずに続けていくことが大切だということが明らかになった。そのために一番大切なことは、多くの若者を活動に引き入れながら、老若男女を問わない交流と協働活動を日ごろから行い、しっかりと次代へと活動を受け継いでゆくことが大切である。

若者を活動の後継者として育て、防犯・防災のための地域ネットワークを構築し、若者に不足している部分は老人が補い、老人に不足している部分は若者が補うことによって、相互依存の関係が築かれ、豊かで安全・安心な暮らしに繋がっていくと考える。

参　考　文　献

１．安全・安心な社会の構築に資する科学技術政策に関する懇談会：
「安全・安心な社会の構築に資する科学技術政策に関する懇談会」報告書、
http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/anzen/houkoku/04042302.htm、2004.4

２．大竹、笹岡、外川、廣井、山田、渡辺：ICT 活用による安全・安心に向けた検討、平成２０年度活動報告第Ⅱ部学生による研究成果報告①、p.99-151、長岡大学、2009.3

３．内藤孝：高橋九郎、郷土長岡を創った人々、p.54-55、長岡市、2009.3

謝　　辞

本調査活動を進めるにあたり、お忙しいにも関わらず快くヒアリング及び旧神谷信用組合の現地調査を受けてくださった神谷区長白井湛氏、歴史・文化の会事務局長丸山信昭氏、活動を進めるうえで適切なアドバイスを下さったアドバイザー桑原眞二氏に感謝申し上げます。

また、アンケート調査に快く協力くださった神谷の皆さんに御礼申し上げます。

ブックレット既刊号のご案内

① アタマは鍛えれば強くなる　原　陽一郎
② 授業評価の実態　－学生満足度の高い授業とは－　平野　順子
③ ニートとフリーター　－揺れる若者の選択－　玄田　有史　　兒嶋　俊郎
④ 2005長岡大学「起業家塾」　原　陽一郎　　原田　誠司
⑦ 現代GPシリーズ１　情報力を鍛える　－長岡大学における情報リテラシー・資格教育－　村山　光博
⑧ 現代GPシリーズ２　長岡大学教育プログラム
⑨ 現代GPシリーズ３　長岡大学教育プログラムⅡ
⑩ 現代GPシリーズ４　第３回 長岡大学文化講演会特集　第Ⅰ部　若者の社会人基礎力を鍛える　－若者自立の教育を考える－
⑪ 現代GPシリーズ５　2006長岡大学「起業家塾」　原　陽一郎　　原田　誠司
⑫ 夢をかなえる長岡大学の教育プログラム　－平成19年度、環境経済学科・人間経営学科がスタート－
⑭ 長岡大学教育プログラムⅣ　学生公募型人間力育成プログラム　－プロジェクト型自主活動とリーダー育成－
⑮ 長岡大学教育プログラムⅤ　長岡地域産業活性化のためのＭＯＴ教育　－イノベーション人材養成プログラム－
⑯ 現代GPシリーズ６　長岡大学教育プログラムⅥ　学生による地域活性化提案プログラム　－政策対応型専門人材の育成－
⑰ 現代GPシリーズ７　いま、なぜ大学改革か　…21世紀の新しい大学像は　原　陽一郎
⑱ 現代GPシリーズ８　第４回 長岡大学文化講演会特集　第Ⅰ部　脳科学と教育－21世紀の新しい教育を考える－
⑲ 現代GPシリーズ９　2007長岡大学「起業家塾」　原田　誠司
⑳ 現代GPシリーズ 10　学生による地域活性化提案プログラム　－政策対応型専門人材の育成－　平成19年度成果報告
㉑ 現代GPシリーズ 11　情報力を鍛える　－長岡大学における情報リテラシー・資格教育－　村山　光博
㉒ 現代GPシリーズ 12　第５回 長岡大学文化講演会特集　若者の自立支援とキャリア教育　宮本みち子
㉓ 現代GPシリーズ 13　学生による地域活性化提案プログラム　－政策対応型専門人材の育成－　平成20年度成果報告（概要）
㉔「米百俵の精神」と長岡大学　原　陽一郎
㉕ 資格検定ガイドブック
㉖ 学生の３つの就職力一体形成支援プログラム
㉗ 現代GPシリーズ 14　平成21年度地域活性化ＧＰプログラム　学生による成果発表会（概要）
㉘ 現代GPシリーズ 15　社会人基礎力育成グランプリ出場報告
㉙ 現代GPシリーズ 16　学生による地域活性化提案プログラム　平成19年度～21年度活動報告（概要）
㉚ 長岡大学イノベーション人材養成講座　平成19～21年度成果報告書
㉛ 長岡大学のグローバルスタディ　－21世紀の基盤精神「グローバルマインド」を身につける学習プログラム－
㉜ 大学とはどういうところか？　－高校生の進路選択のために－プログラム－〈2010年版〉
㉝ 楽しもう！越後長岡「まちの駅」　～長岡大学鯉江ゼミナール　地域活性化への取り組み～
㉞ 長岡大学のキャリア教育　平成21～23年度「学生の３つの就職力一体形成支援プログラム」

長岡大学ブックレット ㉟
【発行日】平成25年６月25日
【編　集】長岡大学ブックレット編集委員会
【発　行】長岡大学
〒940-0828 新潟県長岡市御山町80－8
TEL.0258(39)1600㈹ FAX.0258(33)8792

長岡大学ブックレット